

第3回 二宮町小中一貫教育校推進研究会

会 議 録

平成30年12月10日

1 開会時間 17時 00分

2 閉会時間 19時 47分

3 会員名簿

No.	出欠席	氏名	所属
1	○	山崎 俊裕	会長 東海大学教授
2	○	平田 光枝	副会長 地区長（二宮小学校区）
3	○	泉 直英	小学校 PTA 代表（山西小学校）
4	○	三田 哲也	中学校 PTA 代表（二宮西中学校）
5	○	蓮實 茂夫	地区長（山西小学校区）
6	○	山本 正博	地区長（一色小学校区）
7	○	本荘 勝康	校長会代表（二宮小学校）
8	○	和田 智司	校長会代表（二宮西中学校）

6 出席者氏名
教育長 府川陽一
教育部長 志賀道郎
教育総務課長 小笠原純二
教育総務課指導班長 寺口瑞紀
教育総務課指導班主幹 永井貴幸

7 傍聴者 2名

第3回 小中一貫教育校推進研究会

開催日：平成30年12月10日（月）

時 間：17時00分から

場 所：役場2階第1会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

町長町議会議員選挙に関連した新聞記事が掲載されたが、一部誤解を招く記載があった。小中一貫教育校推進研究会では、学校再編について、中期的な目標、短期的な目標を設定した。地区の代表や、学校、PTAの代表が集まって、研究会を行っているが、この研究会の結果がそのまま町の計画になるわけではない。町民説明会を行うなどし、町民の皆さんのご意見をいただきながら、最終的にまとまる時期は来年度以降と聞いている。記事の中に、たたき台という言葉があり、山西小学校と一色小学校を合併するということが書かれているが、そのようなことは決定されていない。現時点でこの記事によって、いたずらに不安をあおったりすることは好ましくないということを再認識していただきたい。傍聴の方にもご理解いただきたい。

3. 議題

(1) 二宮町小中一貫教育校推進研究会報告について

- ・冒頭にはじめにとして、この研究会の目的等を示させていただきました。
- ・次のページに研究会の開催状況等についてということで、今までの研究会の開催について、書かせていただき、次の3ページで内容を書かせていただきました。
- ・続いて、課題とビジョンの共有についてということで、
 - ①児童・生徒数の減少
 - ②単級化
 - ③施設の老朽化と統廃合の必要性
 - ④学校の果たす役割を課題としてまとめました。
- ・ビジョンとしては5ページ目に、研究を進めるにあたっての5つの留意事項を記載させていただきました。

(本荘会員) 検討会で8つに整理された事項ですが、導入検討会で検討したものを事務局でまとめたものですので、そのように記載していただきたい。

(事務局) 検討会で整理したと記載したが、詳しく書けば検討会で話したことを基に事務局でまとめて、それを校長会で了解いただいたものです。

(運實会員) 検討会で話し合われたものと誤解されてしまっては困るということではない

でしょうか。

(事務局) 検討会では、一体型であれば小中一貫教育の良さが出てくるが、分離型ではあまり意味がないので、一体型をより早い段階で作るため、小学校区をベースに小中一貫教育校を3つ作るべきだという意見が出ていました。それでも事務局では、小中一貫校を3つにすると、中学校で単級化が進んでしまうので、難しいと考えました。

(事務局) 検討会を踏まえてという形にさせていただければと思います。

(平田副会長) 平成29年度の地区長研究会での話し合いの中では、これからの活動を考えるのに、二宮小学校は人口が多いので海側山側と分け、小学校区は4つに分割しました。

(泉会員) この報告書は、このまま町民に伝わるのでしょうか。

(事務局) この報告書をそのまま公開するわけではありません。

(本荘会員) 公開されるが、このままパブリックコメントの対象にするわけではないということですよ。ですから、それを見た町民から問い合わせがあるかもしれませんね。

(事務局) 公開する時期や、単体で公開するのか等も考えていかなければいけない。

(山崎会長) 町民から見ると、研究会と検討会の内容が一緒になるのではないですか。

(和田委員) 先日の新聞の記事では、見出しが統廃合となっていたため、内容が統廃合のことだと誤解を招いた例もあります。この報告書も誤解を招かないように注意が必要です。

(山本会員) 8つの整理された事項というのは、検討会のものと一緒ですよ。そうだとしたら、検討会で検討した内容ということ、分かりやすく示した方がいいと思います。

(蓮實会員) 上記8事項についてはという書き方は、ページも変わっていますし、わかりにくいと思います。

(泉会員) 学校の施設の表が分かりにくい。年度と施設数で表にした方が良くと思います。

(和田会員) 学校の果たす役割として、「教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが必要です」とあります。このように、本来のねらいである二宮らしい教育を行うための小中一貫教育ということ伝えることが、もっとも重要なことだと思います。5つの留意事項の中にはこのことがあまりうたわれていないと思います。

(山崎会長) メインの理念がここには書かれていないということですよ。

(平田副会長) 住民の十分な理解とともに、というような文言を入れていただくと、地域とともにある学校づくりということが考えられていいと思います。

- (山崎会長) 統廃合のプロセスもありますが、統廃合ありきでいいのでしょうか。統廃合ありきではなく、もう少しソフトに書いていけないのでしょうか。
- (和田会員) 長い文章は目に入りにくく、このような箇条書きの文章はパッと目にはいってしまおうと思います。
- (泉会員) 冷たい感じに捉えられてしまう。
- (事務局) ここは、あくまでも課題をあげているだけですので、ここで統廃合としなくても良いと思います。検討会の内容を再検討させていただいたという内容に変更させていただきたいと思います。
- (山本会員) 50年という長いスパンで見たときの計画を立てていくと、分かりにくいので、期間を区切り、再編成するプロセスを図などで、分かりやすく示していく必要があると思います。
- (事務局) 小中一貫教育校を目指していくことは、合意をいただけていると思うのですが、プロセスの中の4校・2校という部分で意見が分かれると思いますので、議論をお願いしたいと思います。
- (蓮實会員) 小学校区に1つの学校という原則は、中長期的には今の小学校区に1校という意味をなさなくなってしまうと思いますので、意味がないのではないかと思います。
- (山崎会長) 研究会の意見として、どこに載せることが出来るかということですよ。
- (事務局) 留意事項について、検討会を踏まえた研究会の意見ときちんとうたうべきですね。
- (和田会員) 検討会と研究会が分かりにくくて、混ざりやすいと思いますので、研究会の内容を前に持って行った方がいいと思います。
- (蓮實会員) 3番の検討会の内容を参考資料にした方がいいのではないですか。
- (事務局) 文章の中で、検討会の内容を踏まえて研究会を行ったということをはっきりと明示していきます。次は2月を予定していますので、一度訂正したものを送付させていただきたいと思います。
- (山崎会長) 施設の老朽化と統廃合の必要性というところも、必要でしょうか。
- (事務局) 公共施設を5校維持し続けることは出来ないということをおっしゃっているので、統廃合については、書かせていただきたい。別の計画による位置づけを追加させていただきたいと思います。

- ・6ページ目は、35人学級で単級化を防ぐための手立てについて、短期的・中期的な時期に分け整理しました。また、7ページ目は、短期的・中期的目標についてまとめました。8ページ目は、2つの小中一貫教育校グループについて、9ページ目は、通学区域の変更についてまとめました。10ページ目は全体のまとめとし、中期的な目標の施設一体型を2つ作るということを軸にまとめました。

(本荘会員) 校長会の意見として、小中一貫教育を推進することを最優先にするならばこの案は小中一貫を推進する案ではない。(10 ページのまとめの中で) 短期的には施設を分離した中で小中一貫教育を行うとありますが、このことについては反対です。小中一貫教育を推進するならば、一体型をどのように作るかが議論されるべきで、それを中期的な目標で先送りし、小中一貫教育を分離型で進めることはあまり意味がないのです。小中一貫教育を推進することを第一に考えるのなら、分離型というのは、職員の負担が増えるばかりです。2030 年から小中一貫教育を一体型で進めるための研究を進めるべきで、分離型で進めるべきではない。進めるまでの間、当面、学校の統廃合や学区の再編を考えていくということを明確にしていくべきだと思います。中期的な目標である小中一貫校 2 校に至るまでのメリット、デメリットをうちだしていくべきだと思います。

(事務局) まとめ方がこのままだと、短期的・中期的・長期的ということが書かれていて、最終的な目標が分かりにくいと思いましたので、まとめ方を変更します。

(山崎会長) できるだけ早い段階で小中一貫教育を始めることを考える際、短期的には小中一貫教育を分離型で行うか、一体型で行われるまで待つか、という 2 つになるということでしょうか。

(本荘会員) 分離型で小中一貫教育を進めるのは無理があると思います。

(事務局) カリキュラムの研究は進めている状況だと思います。

(本荘会員) 分離型で小中一貫教育を進めていくのは、限界があると感じています。分離型の小中一貫教育を進めるのではなく、施設一体型の小中一貫教育を念頭におきながら、その準備を進めていくべきだと思います。

(山崎会長) 今進めているのは小中一貫教育というニュアンスよりは、むしろ小中連携型という感じがする。

(事務局) 小学校と中学校がお互いに行き来して、授業を行っていくことは現実問題として難しいということをご指摘の通りです。一体型でないと小中一貫教育が進まないのであれば、一体型を先行していく方法もあります。昨年度の検討会では 41 通りのパターンが挙げられ、その中に二宮西中学校を一色小学校へ移転するというケースもありました。この手立てでは単級化を防ぐことはできない、また、山西小学校を除いての小中一貫教育を考えることは合理的でない、ということで、事務局のまとめとしては残しませんでした。部分的な一体型の小中一貫校を作る案としては想定されていたものです。

(山本会員) 分離型で小中一貫教育を行うのは、小学校の先生が大変なのでしょうか。

(本荘会員) 物理的に先生たちの行き来をするのは難しいのが現状です。その中で、無理やり乗り入れ指導をしようとする、先生方が疲弊してしまうと思います。本来は何を目指したいのかというのを明確に示し、そこに至るまでの経緯も盛り

込むことが出来ると思います。

(山本会員) 小中一貫教育をもう既に行っているということですが、どのように行っているのでしょうか。

(事務局) 今は、小学校と中学校の先生がお互いに授業を参観したり、研究したり、お互いに教え方や学習内容などを学び合っているところです。学習内容・教育方法をお互い学び合っている段階を経て、その後に 9 年間で取組むカリキュラムを作り、実践していくことを考えています。

(山本会員) これは小中一貫教育といえる取組みですか。

(事務局) 今話したことは小中一貫教育とは言えませんが、外国語活動については小中一貫教育と言えます。具体的には、中学校の英語科担当の先生が小学校の外国語活動に関わって、一緒に授業をしたり、準備をしたりしています。このように小中一貫教育に向けて研究している中で、この研究会では学校配置についても議論していただいています。今は、一体型でない小中一貫教育は難しいという結論に行きつつあるところだと思います。学校の数だけをクローズアップされてしまうと、小中一貫教育が出来ているかのように見えてしましますが、それだけではないということを、盛り込んでいく必要があるということだと思います。

(平田副会長) 小学校、中学校の時期はとても大切な 9 年間で、どのように子どもを育てていくのかというのは、とても大事です。これから町民の皆さんに、その部分を見せる必要があると思います。新聞にも英語の乗り入れ指導を行っているという記事が載っていました。二宮町としては、英語を起点として、小中一貫教育をおこなっているということでしょうか。

(事務局) 現在は外国語活動において乗り入れ指導を行うため、英語の教員を 1 人増員しています。施設一体型になれば、小中の先生が協力してカリキュラムを作ることや、他教科においても乗り入れ指導をしていくことが可能になる、というのが校長会の意見です。

(本荘会員) 二宮町の教育として、小中一貫教育校を 2 校にしていくということを分かりやすくまとめていく必要があると思います。

(山崎会長) 施設の老朽化などの議論はよろしいでしょうか。

(事務局) ハード面はまた違うところで検討していきます。

(蓮實会員) 町の財政からすれば、長寿命化計画に則ってやっていくとは思いますが、長期的なものを考えて、中期的・短期的な計画をを考えていく必要があると思います。長期的には町内 1 校を適正位置に配置するとあるので、今の段階で、その 1 校をどこに置くのかということを考えていく必要があると思います。

(山崎会長) 長寿命化計画を行っていくとしても、お金をあまりかけないように、財政面も考えて、どこに学校を残すのかということを考えていくことが必要ですね。

- (事務局) この研究会の回答を受けて、教育委員会ではどこに学校を残すのかということも考えていかなければいけないと思っています。
- (蓮實会員) 長期的に1校になるのであれば、中期的に実現を目指す2校の設置場所は重要になってくると思います。
- (和田会員) まとめ方の中に、目標と短期的な目標と参考があり、分かりにくいと思います。
- (事務局) 目標は、小中一貫教育校を2校つくることに絞りたいと思います。
その実現に向け、短期的にどのような準備をするのかを書く形でまとめます。
- (三田会員) 今ある施設を効率的に使うことが出来ればよいと思います。
- (和田会員) この研究会では、あまり財政面を議論してこなかったのが、財政面での課題については書かなくてもいいのではないかと思います。
- (事務局) 小中一貫教育校を実現するためには財政も必要になると思います。
- (山崎会長) どこの学校を残すのかということの意見はいかがでしょうか。
- (蓮實会員) 長期的に1校にする考えがあるのならば、位置的な要素の観点で、町の中心にある山西小学校は残していくべきではないでしょうか。
- (三田会員) 山西小学校はバスターミナルを作る必要があると思います。一色小学校は団地中央のターミナルがあるので、そこを使うことが出来ると思います。また、もともと二宮小学校と一色小学校だったので、この2校が南北にあっても良いと思います。1校になったときは、学校の位置が町の真ん中にある必要があるかもしれませんが、そのときには新設も考えられると思います。
- (山本会員) 山西小学校区と一色小学校区の統合を考える際、どこの学校を残すのかという議論についてですが、学校の果たす役割ということを考えていく必要があると思います。一色小学校はコミュニティ・スクールを先発して行っていて、地域住民とのかかわりがかなり大きく、地域の中の学校を残してほしいと思います。
- (蓮實会員) 学校は地域コミュニティの核としての性質もあるということですが、地域の拠点の継承ということ考えたときに、学校として存続しなくても、建物を地域のコミュニティの核としての場所として残すことはあり得ると思います。違った形のいかし方については、ゼロからのスタートになるとは思いますが、他の活用方法等も考えていく必要があると思います。単級化を防ぐために統合した結果、通学距離が長すぎる場合は、スクールバス等で通うことも選択肢として出てくるのかもしれないですが、子どもにとって近くに学校があり、徒歩で通える方がよいと思います。学校ができた年代もありますが、どの学校でも長寿命化工事を行って維持していくので、条件はどの学校でも同じなると思います。
- (泉会員) 学校がなくなるというのは嫌だという気持ちはあります。山西小学校と一色小学校とを比べ、立地条件等を考えると、一色小学校を残すことが妥当かもしれません。

ません。どこの学校をなくすことになっても、学校は防災の拠点となっていますので、そこをどうするのか、また、学童保育をどうするのか、ということを考えていく必要があると思います。例え、山西小学校がなくなったとしても、子どもたちの遊ぶ拠点として、学童保育の場所として残す必要性を考えるべきだと思います。できれば町の施設として使ってほしいです。また、一色小学校にだけ学童保育を残すというのは、現状としては厳しいので、学童保育としては2校ともに残す方が良いでしょう。

(三田会員) だからこそ、跡地を町の施設として使っていくことがいいと思います。

(平田副会長) 学童保育は学校の中にあることに意味がある。公共施設の再配置は、小学校の駐車場等の整備も含めてと考えてよいのでしょうか。

(泉会員) 学童保育が、一色小学校だけに1つというのと、保護者の方は、大変だと思います。財政面は、とても大切なことだと思いますが、単級をなくすということを押していくのであれば、単級の財政面でのデメリットを説明していく必要があると思います。

(事務局) 単級だからというよりも、町の財政規模として、5校というのは難しいところがあります。単級になった場合のメリット・デメリットをきちんと整理していきたいと思います。

(4) その他

次回の会議の日程について

(事務局) それでは閉会にします。

19時47分 終了